

別紙①  
「北小授業デザイン」(Ver.2.02)

<低学年用>

過程	学習活動	時間	教師の支援	形態とツール	ノート
つかむ	<b>1. 本時の課題を知りめあてをつかむ。</b>	5分	<p>「わくわくドキドキするめあて」を工夫し、意欲付けする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問文形式とする。</li> <li>・「できそうかな？」と問いかけをする。</li> <li>・課題を知ったあと、めあてをつかむ。</li> <li>・既習では解けないことを確認する場合のみ既習の振り返りを行う</li> <li>・<b>テンポアップ導入</b></li> <li>・子どものうなずきを見ながら</li> </ul>	<p><input checked="" type="checkbox"/>めあてを提示するための指定の「ふきだし」</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>全体</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>フラッシュを活用して最小限の振り返り？</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>前時のノートは最小限に</p>	<p>・板書にあわせて、めあてを指定の</p>  <p>で書かせる。</p>
追究する ・比較検討する	<b>2. 見通す</b>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を操作してやってみせる</li> <li>・子どものうなずきを見ながら</li> </ul>	<p><input checked="" type="checkbox"/>全体・個人</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ホワイトボードや書画カメラを活用した視覚化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードで一人で考える(図や絵、数、式を書いて考える)</li> </ul>
	<b>3. 追究する</b> 学び合い① 個人→ペア	10分	<p>・説明をするときの説明のしかたの言語能力を国語で指導しながら、定型文を用意し、できるだけ的確な説明ができるようにする。</p> <p>「まず聞く」先生や友達の話を</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うなずきながら聞く</li> <li>・比べながら聞く</li> <li>・体を向けて聞く</li> </ul>	<p><input checked="" type="checkbox"/>ホワイトボードや書画カメラを活用した視覚化</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>個人→ペア</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートに自分の考えを書く</li> <li>・ホワイトボードを修正する</li> </ul>
	<b>4. 比較・検討する</b> 学び合い② ペア→グループ グループ→全体	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループは、意図的に組織し、話し合いの順番、司会などは輪番とする。</li> <li>・自分の考えだけでなく、友達の考えも説明できるように励ます</li> <li>・答えが正解かどうかよりも解き方のちがいに着目させる</li> <li>・めあての達成に向けて、意図的な指名から一般化を図り、言葉を大切にしながらまとめていく</li> </ul>	<p><input checked="" type="checkbox"/>ペア→グループ</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ホワイトボードや書画カメラを活用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>グループ→全体</p>	<p>「つなげて話す」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これ→この10のかたまり</li> <li>・聞き手を見て話す</li> <li>・わかっているところまで話す</li> <li>・友達の考えにつなげて話す</li> </ul>
			<p>&lt;算数で大切にしたい言葉&gt;良さを認めていく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「はじめに・つぎに・だから」 ・そうだね</li> <li>・繰り返して整理復唱してあげる(繰り返し復唱法)</li> <li>・子どもの考えを返してあげる(切り返し)</li> <li>・「この方法のよさは？」</li> <li>・「一番簡単な方法はどれ? なぜ、そう思う？」</li> <li>・「なぜそのような方法でしたの?」「共通した考え方は?」</li> <li>・「どのようにするとよい?」「他の場合ではどうなる?」</li> </ul>		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通の考えを子どもの意見を生かしながら分類する</li> <li>・それぞれの考えのよいところ</li> </ul>	<p><input checked="" type="checkbox"/>ホワイトボード</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>書画カメラ</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>タブレット</p>	

			を確認していく	形 全体	
	<b>5. まとめ・振り返り</b>	10分	<p>めあてに対するまとめとして、めあてを主語にし、まとめを述語になるようなまとめとする  (例) <b>めあて</b>平均がわかっているときの全体量を予想するにはどうしたよいか  <b>まとめ</b> 平均がわかっているときの全体量を予想する方法は、  全体量＝平均×個数で表せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホワイトボードやノート、板書の図や考えを的また言葉などをもとにめあてに対して振り返っていく。</li> <li>何がわかったかを自分の言葉で吹き出しに書いていく</li> <li>わかったことを利用しながら、適応問題に取り組み、わかったという実感へと結びつける。</li> <li>テンポよく○付けをしていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形 個人で振り返る</li> <li>形 ペアやグループで相談してもよい</li> <li>形 個人で適応問題に取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業のまとめを考えノートに書く</li> <li>わかったことを自分の言葉で書く</li> <li>練習用ノートで適応問題に取り組む</li> </ul>

<高学年用>

過程	学習活動	時間	教師の支援	形態とツール	ノート
つかむ	<b>1. 本時の課題を知りめあてをつかむ。</b>	5分	<p>「わくわくドキドキするめあて」を工夫し、意欲付けする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>疑問文形式とする。</li> <li>既習では解けないことを確認する</li> <li>課題を知ったあと、めあてをつかむ。</li> <li><b>テンポアップ導入</b></li> <li>子どものうなずきを見ながら</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツ めあてを提示するための指定の「ふきだし」</li> <li>形 全体</li> <li>ツ フラッシュを活用して最小限の振り返りを行う</li> <li>ツ 必要な場合のみ、前時のノートを書画カメラで写し振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書にあわせて、めあてを指定の</li> </ul>  <p>で書かせる。</p>
追究する・比較検討する	<b>2. 見通す</b>  <b>3. 追究する</b> 学び合い① 個人→ペア	3分  7分	<ul style="list-style-type: none"> <li>解決の見通しをもたせるための工夫を行う。</li> <li>○具体物の提示</li> <li>○書画カメラでの課題の提示</li> <li>子どものうなずきを見ながら</li> <li>肯定的な言葉かけを多く行う</li> <li>付箋に予想を書かせる</li> </ul> <p>3～5分で自力解決。書画カメラで全体に説明させる</p> <p>3～5分で自力解決。ペアやグループで考えを交流する</p> <p>自信を持って説明できるように説明させる前に○付けを素早く行う&lt;○付け法&gt;</p> <p>「まず聞く」先生や友達の話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>うなずきながら聞く</li> <li>比べながら聞く</li> <li>体を向けて聞く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形 全体・個人</li> <li>ツ ホワイトボードや書画カメラを活用した視覚化</li> <li>ツ タイマーでテンポよく進める</li> <li>ツ ホワイトボードや書画カメラを活用した視覚化</li> <li>形 個人→ペア/全体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>付箋に自分の予想を書く (図や絵、数、式を書いて考える)</li> <li>予想を</li> </ul>  <p>でノートに書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ノートに自分の考えを書く</li> <li>自分の考えを修正する</li> </ul>
			<p>「つなげて話す」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達の考えにつなげて話す</li> <li>図や絵、数、式を用いて話す</li> <li>これ→この10のかたまり</li> <li>聞き手を見て話す</li> <li>わかっているところまで話す</li> <li>友達の考えにつなげて話す</li> </ul>		

<p><b>4. 比較・検討する</b>        学び合い②        ペア→グループ→全体</p>	<p>20分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループは、意図的に組織し、話し合いの司会や順番は輪番とする。(グループ)</li> <li>・友達の考えを説明できるように促す。(全体)</li> <li>・答えが正解かどうかよりも解き方のちがいに着目させる</li> <li>・途中までの図や絵、数、式を板書し、子どもたちの説明で考えをつないでいく</li> <li>・子どもの考えの大切な部分を復唱&lt;意味づけ復唱法&gt;</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>&lt;算数で大切にしたい言葉&gt;良さを認めていく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「はじめに・つぎに・だから」 ・そうだね</li> <li>・繰り返して整理復唱してあげる(繰り返し復唱法)</li> <li>・子どもの考えを返してあげる(切り返し)</li> <li>・「この方法のよさは？」</li> <li>・「一番簡単な方法はどれ? なぜ、そう思う？」</li> <li>・「なぜそのような方法でしたの?」「共通した考え方は?」</li> <li>・「どのようにするとよい?」「他の場合ではどうなる?」</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通の考えを子どもの意見を生かしながら分類する</li> <li>・それぞれの考えのよいところを確認していく</li> </ul>	<p>形 ペア→グループ        ツ ・ホワイトボード        ・書画カメラ        ・タブレット        形 グループ→全体</p> <p>ツ ・ホワイトボード        ・書画カメラ        ・タブレット        形 全体</p>	
<p><b>5. まとめ・振り返り</b></p> <p>まとめ・ふりかえり</p>	<p>10分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあてに対するまとめとして、めあてを主語にし、まとめを述語になるようなまとめとする        (例) <span style="border: 1px solid black;">めあて</span>平均がわかっているときの全体量を予想するにはどうしたよいか  <span style="border: 1px solid black;">まとめ</span> 平均がわかっているときの全体量を予想する方法は、全体量＝平均×個数で表せる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・揺さぶりや切り返しをしながら、めあてに対してまとめを行う</li> <li>・キーワードに整理し、児童の言葉でまとめを行う</li> <li>・学習を振り返りながら板書の図や考えをまた言葉などをもとにまとめていく</li> <li>・何がわかったかを自分の言葉で吹き出しに書いていく</li> <li>・わかったことを利用しながら、適応問題に取り組み、わかったという実感へと結びつける。</li> <li>・テンポよく○付けをしていく</li> </ul>	<p>ツ ・ホワイトボード        ・書画カメラ        ・タブレット        形 全体        形 個人で振り返る        形 ペアやグループで相談してもよい        形 個人で適応問題に取り組む</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のまとめを考えノートに書く</li> <li>・わかったことを自分の言葉で書く</li> <li>・練習用ノートで適応問題に取り組む</li> </ul>

### 「家庭学習につなげる板書の工夫とノート指導」

授業の準備には、「はばたく群馬の指導プラン」実践の手引き、P 33の授業構想シートを参考に、振り返り活動がわかる板書計画を折に触れて作成するとともに、「板書はノートを作る」という視点から、低学年では、マス目黒板の利用を、また、高学年でも定規やコンパスを利用した板書を行い、ノートの模範となるようにする。さらに、めあて、既習事項、ホワイトボードなどの個人の考え、まとめを書く位置を年間を通じて統一しておくこと。その上で、昨年度までの「北小ノートの約束」を発展させて、ノートには次のような指示を行うこととした。

- 日付、教科書のページ、めあて、課題を板書の通りに書く。
- 個人追究での自分の考え、比較検討での友達の考えや、その考えのよさなどを吹き出しを用いて書く。
- 授業のまとめを、板書の通りに書く。
- 定規や分度器など、教師が板書で使って見せて、ノートにも同じように書く。
- この授業で分かったことや疑問に思ったことを吹き出しを用いて書く。
- ノートに書くか書かないかが一目でわかるように、「絵カード」を示す。
- 「まとめ」など学習の大事なことを書く吹き出しと、自分の考えや気づいたことを書く吹き出し、さらに、既習事項の振り返りや公式など考えの裏付けとなる事項を書く吹き出しを区別することが大切で、学校全体で統一することが、ノートの指導が定着しやすいと考える。
- 吹き出しのルール作りとして、来年度4月より全学年共通で付け加える内容は次のようである。

	吹き出しの種類	吹き出しのルール
四角		低学年・高学年は共通で、「めあて」「まとめ」を四角で囲む1・2年生は、だんだん書けるように指導していく。
風船		(低) 自分の考えや既習事項は、風船に書き込む。 (高) 予想や曖昧な考えは、くもくも。既習事項や考えたことや気づいたことは風船を使う。

北小ノートの約束を、ノートに貼っていつでも確認できるようにする。

#### 【北小ノートの約束】

<p>○月○日 ○ページ</p> <p>めあて「○○○○○○○○」</p> <p>本時の課題</p> <p>自力解決・・・</p> <p style="text-align: right;">既習・気づき</p> <p style="text-align: center;">自分の考えや予想</p>	<p>友達の考え、学び合いの内容 演習問題など</p> <p style="text-align: right;">既習・気づき</p> <p>本時のまとめ</p>
--	--